

三原市歴史民俗資料館

蔵出しお宝ニュース

— 第 3 号 —

三原やっさ踊り特集号

三原市歴史民俗資料館では、本年度より所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参りたいと思っております。

“私たちのやっさ踊り展” 開催へ

来たる8月3日（金）～12日（日）の10日間、ペアシティ三原西館2階市民ギャラリー・ギャラリー1にて、三原市観光文化課と三原市歴史民俗資料館の共同主催で「私たちのやっさ踊り展」という企画展を開催いたします。この企画展は、第37回三原やっさ祭り協賛行事で、三原市が誇る伝統芸能であるやっさ踊りの歴史や古写真・さまざまなやっさグッズなどを紹介する予定です。

期間中の8月5日（日）には、会場にて三原やっさ踊り振興協議会の皆様に昔風のやっさ踊りを特別披露していただきます。午前11時と午後2時の2回公演です。現在のやっさとはいち味違う、少し緩やかな唄や踊りにご注目ください。



（上）昭和31（1956）年
8月17日

やっさ踊り（資料館蔵）

（下）昭和40（1965）年頃
子どもやっさ（個人蔵）

私たちのやっさ踊り展

会期：平成24年8月3日（金）～8月12日（土）

時間：午前10時～午後6時

（入場は午後5時30分まで）

ただし10日（金）～12日（日）は午後5時まで

会場：三原市民ギャラリー ギャラリー1

三原市城町一丁目2番1号

（ペアシティ三原西館2階）

問い合わせ：三原市経済部観光文化課

TEL0848-67-6015 FAX0848-64-4103

三原やっさ 最古のレコード 好評

創刊号で紹介いたしました昭和 29 年（1954）11 月にコロムビアが製作したやっさ踊り唄最古のレコード「民謡 ヤッサ踊」が、各新聞や三原テレビでも大きく取り上げられ、おかげさまで人気を博しています。その後、2 枚寄贈を受けました。

やっさ教室が始まっていることもあり、蔵出しお宝ミニ展示コーナーの見学と CD 化したものの試聴に、日に数名ご来館いただいております。

現在、高齢者を対象に、青少年期に使われていた資料を見ていただき、若い頃のことを思い出し脳の活性化をはかる^{かいそうほう}回想法が全国的に注目されています。古いやっさの音源を聞かれたご来館者様が懐かしいお話で盛り上がりおられる様子は、まさに回想法そのものだと思います。

古代から近代にかけての三原の歴史を体感できる資料館にぜひお運びください！



（上）この春から
忙しくなっ
た蓄音機
（下）蔵出しお宝
ミニ展示
コーナー

資料館マメ知識 「やっさ」とは？

やっさ踊りは永禄 10（1567）年、戦国時代の智将・小早川隆景が三原城を築いた際に、その完成を祝って、老若男女を問わず太鼓や笛を打ち鳴らし、祝い酒に酔って思い思いの唄を口ずさみながら踊ったのが始まりと言われていますが、踊りの起源は、鎌倉時代の踊り念仏までさかのぼるようです。その後、歌詞や曲調が変遷を遂げていき、いつの頃からか^{はやし}囃子言葉が「やっさやっさ」とかけられるところから“やっさ踊り”と呼ばれるようになりました。また、着物の袖がひらひらとなる様子や、灯の入った^{ちようちん}提灯が揺れる様子から、“^{こちよう}胡蝶の踊り”とも形容されます。

「やっさ」とは掛け声の一種で、「ヨイショ・ヤットナ」などと同じ意味合いです。『広辞苑』によると、「やっさもっさ」について、〔栄華物語の疑の篇に、法成寺建立の際、大工らが用材を高所へ引き上げる時の掛け声を「えさまさ」と記す。その転という。労働の際の掛け声。転じて大勢よってたかつてのとりこみ、どさくさ、大騒ぎ。〕とあります。

「やっさもっさ」は方言のように聞こえますが、全国共通語なのです。

踊り方は他の盆踊りと異なり、自由奔放であることに最大の魅力があります。ですが、長年踊られるうちに自然とできた三原やっさ踊り独特の型があります。ナンバと呼ばれる右足が出れば右手が出、左足が出れば左手が出るという江戸時代以前の所作が残っていること、また、身振り手振りだけではなく、全身を使った踊りであるということ、踊り手も囃子を入れることなどです。

大阪万博出演以降は「足は 2 段跳ね・手は招き手・体は左右に・笑顔」の 4 点をやっさ踊りの基本としました。

詳しくは「私たちのやっさ踊り展」会場にて、パネルでご紹介いたします。

発行 平成 24 年（2012）7 月 19 日

〒723-0015 三原市円一町 2 丁目 3-2

（三原市立中央図書館 北隣）

TEL 0848-62-5595

三原市歴史民俗資料館 山崎愛一郎 編集